

【普通作物】の【低温】対策について

<5月>

農業経営支援課

【早期水稻】（幼穂形成期）

（1）予想される被害状況

- ① 最低気温が概ね17℃以下になると、幼穂の発育障害や不稔が生じる。
- ② 低温ではいもち病が発生しやすくなる。
- ③ 低温が長期間続くと、幼穂形成など生育が遅れる。

（2）事前対策

- ① 低温時は、できるだけ深水管理（10～15cm）とし幼穂を保護する。
この場合、水量の少ない水系では水量不足で急な深水管理が困難となるので、低温予報がでたら早めに水位を高めておく。
- ② いもち病の観察につとめ、遅れないように防除を行う。
- ③ 穂肥施用は、幼穂の伸長を確認して品種に応じて適期に行う。
※倒伏しやすいコシヒカリは幼穂が1cmになってから葉色に応じて施肥する。

（3）事後対策

- ① 低温に遭う回数が多いほど被害が大きくなるので、気象情報に注意して低温時は深水管理を続ける。

【普通期水稻】（育苗・移植期～分けつ期）

（１）予想される被害状況

- ① 苗の伸長遅れや根のマット形成が悪くなる。
- ② 移植後の苗が寒害を受け、葉先や株が枯死する。
- ③ 移植後の活着や分けつの発生が遅れる。
- ④ 苗が寒害を受けた場合、本田除草剤の影響を受けることがある。

（２）事前対策

- ① 出芽以降の夜間の低温時は、被覆や加温機で必要温度の確保に努める。
- ② 苗箱へのかん水は、夕方行うと地温を下げるので必ず午前中に行う。
- ③ 硬化期以降は外気に十分に慣らす、晩霜害には注意する。
- ④ 移植は低温や寒風の強い日を避けて行い、移植後は直ちに深水で保温する。
- ⑤ 移植後の低温時や寒風時は深水管理とする。
- ⑥ 昼間の掛け流しは避け、畦波やポリチューブを設置し水温の上昇を図る。
- ⑦ 寒害を受けた場合、本田除草剤の散布は使用範囲の中で遅めにする。
- ⑧ 本田準備は、漏水が激しいと水温が上昇しにくいので代掻きは丁寧にする。

（３）事後対策

- ① 苗の伸長にムラが発生した場合は、箱を置き換えて揃える。
- ② マット形成が不十分で田植えに耐えられない場合は、育苗期間を延長する。
この場合、葉色により液肥散布や立枯病等の防除を行う。
- ③ 低温の心配が無くなったら、浅水管理とし水温や地温の上昇を図る。
- ④ 残草が多い場合は、中後期除草剤で除草する。